

# 上杉と武田、両雄の侵攻を耐え抜いた山城

本展は、皆野町にある山城から、埼玉県選定重要遺跡に指定されている竜ヶ谷城を紹介します。

同城は、山頂の本曲輪を中心に、曲輪や堀切、土塁、石積などが良好な状態で残ります。北条氏邦の鉢形領を支えたこの山城は上杉謙信の関東侵攻に伴う「秩父一乱」や、武田信玄の秩父侵攻を経て、鉢形落城後に廢城になったとされています。

## 第1章 竜ヶ谷城から読み解く山城

竜ヶ谷城の縄張り図や写真をもとに、山城を構成する施設や、竜ヶ谷城の城を守る工夫を解説します。

## 第2章 竜ヶ谷城をめぐる出来事

永祿から元龜年間に生じた、上杉氏の関東侵攻と、武田氏の秩父侵攻について、古文書をもとに紹介。千馬山（＝竜ヶ谷城）の名がある史料もあります。

## 第3章 どうする？秩父の武士

古文書をもとに、戦国期秩父の武士のリアルを追います。

## ◎ 竜ヶ谷城とその周辺

竜ヶ谷城がある標高約321mの山は、要害山、龍界山、千馬山と称される通り、三沢川と田野沢川に囲まれた要害の地です。周辺を見ると、三沢川右岸には妙音寺跡、北尾根を下った先には、後北条氏と武田氏の戦いに由来する「下田野あんどんまち」や、用土氏館跡があったと伝わる場所があります。南側には長福寺五輪塔や、用土氏一族の寺と伝わる正光寺が現在も残ります。



※ 電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成。



城の中心、本曲輪



尾根を切断した堀切



石積を伴う土塁